私が人生中で最も尊敬しているのは小学一年生の時担任の高先生だ。

　小学生の時、私の成績があんまり良くないので、常に落ち込んでしまった。彼女がそれを気~~が~~付き、私を気遣った。理由を聞いた後、私を励ましてくれた。小学校の時、両親も仕事があるため、関心しておらず、その時は寂しかった。だから、先生が励ましてくれたことを心から感動した。

　その上~~に~~、私が勉強に好きになるために、目標を設定して、プレゼントなども用意してくれた。もちろん貴重なプレゼントではなかったが、私にとっては最も大切な宝物です。高先生から貰ったプレゼントは今でもお守りとして人生の道で持ち歩いている。

　私も彼女のように、気遣いができる人になりたいと思い、今は先生になれるとして、目標を目指して頑張っている。